



アサヒグループジャパン株式会社

業 種 / サービス業
 主な事業内容 / 飲料、食品製造販売
 従業員数 / 250人

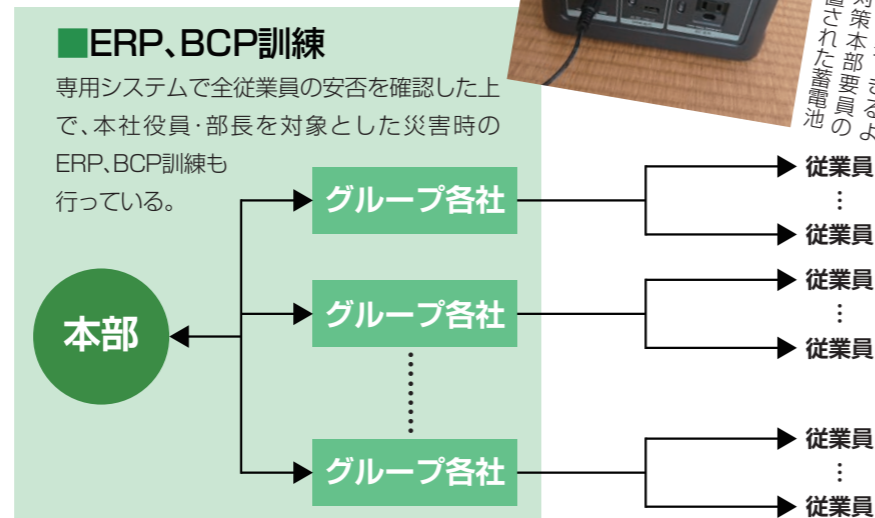
訓練

グループ全従業員を対象に安否確認訓練を実施

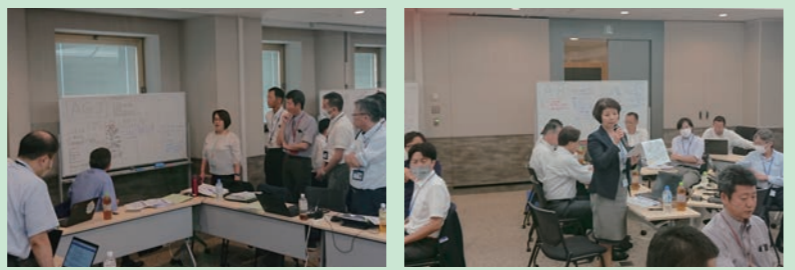
グループ全従業員を対象に、専用システムを使った安否確認訓練、消防署との合同避難訓練を行っている。発災時には、社内に留まり、避難するときには防災センターの指示に従うことを訓練している。また、次の訓練までの間を補完するため新規着任者向けに作成した防災ビデオにて周知努力している。

災害対策本部では、現況確認訓練が行なわれる。また、本部のメンバー全員が災害現場にいるとは限らないので、Webも交えてのハイブリッドで緊急事態対策本部を立ち上げている。

実際に令和6年能登半島地震が起きた際、安否確認システムでの安否確認が行われ、集計はスムーズに行なわれた。



ERP訓練の様子



緊急事態対策本部にて被災状況を把握

各社ごとに状況を説明



被災停電拠点との通信に向けた衛星電話訓練、MCA無線訓練の実施

年に1回、停電を伴う災害を想定し、全国の中継局を通して安定した電波が送られるMCA(マルチチャンネルアクセス)無線や衛星電話を使用し、被災停電拠点との状況報告訓練等を行う。

また、災害が起きた際には、被災停電拠点にMCA無線機を運び、本社との連絡を絶やさないことも計画している。



首都直下型地震に備える蓄電池。今後、増強の必要を検討中

衛星電話 MCA無線機

※ERP(Emergency Response Plan)とは、『緊急事態対応マニュアル』『全体フロー』『行動手順(チェックリスト)』で構成される災害発生時に迅速かつ確に対処するための計画

●防災ビデオ

外国人従業員のために英語版の防災ビデオを制作。また、取引先の来館者等にもちょっとした待ち時間に短縮版を見ていただき、緊急時に備えるよう周知



滞在・外出対応

滞在時を想定し、本社ビル独自の「災害時生活マニュアル」を策定

独自に策定した「災害時生活マニュアル」を、各階にある被災時用の水、簡易トイレ、救急箱等と同じ場所に50部ずつ配置している。これは、発災時に取るべき具体的な行動の手引きとなっている。

停電時、3日間落ち着いて過ごすための生活マニュアル

スマホ対応の手引きも作成しているが、敢えて紙媒体にした理由は、スマホは家族との連絡に使うよう配慮したこと、充電切れを考慮したことによる。



各フロアコーナーにある防災用品とマニュアル

会社のビルに滞在する

会社のビルに「滞在」するために、「食べる」「寝る」「トイレ」それぞれをフロアごとに区分けしている。

14階以上	基本的に滞在しないフロアとして想定
13階	食堂フロア
12階	備蓄倉庫
5~11階	滞在フロア
4階	体調不良者の対応エリア
3階	一般従業員の就寝フロア
B1階	組立式トイレ設置フロア

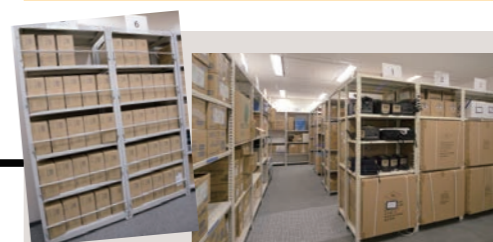
■食べる

13階フロアは、食料の配布とお湯を使う昼食を食べるときに利用。決められたメニューを3日間食べる。



赤いコンセントは非常用

昼食は温かいご飯やパスタ



取りやすさを第一に配置された備蓄品



重要な水は多めに備蓄

■寝る

寝室として男性・女性・負傷者等にエリア分けし、要望があれば、仕切り用ダンボールも設置できる。寝具も備蓄している。



用途別に明るさの違うラタンを準備

寝袋が用意された備蓄倉庫

■トイレ

従業員のために、各階に200回分の簡易トイレを備蓄している。また、地下1階には汚水直結式災害用トイレがあり、社外の在館者や外部の帰宅困難者も利用できる。



防臭袋に入れ、自身で集積所へ運ぶ

従業員以外のお客様等の在館者向け備蓄品を、滞在してもらうフロアにあらかじめ配置している。